東京都議会議員

早坂よしひろレポート

Hayasaka Report 2012.3

都政報告

発行 都議会自民党

被災地の復興編

復興の決め手は、教育・雇用・住宅です。

東日本大震災から丸一年が経過した。そこで「復興支援」の成功例とそうでない部分。さらに「東京の震災対策」について、青山教授との防災対談を通じて報告する。

青山 俣（やすし） × 早坂よしひろ

早坂 本日は、私の大学院在学中の指導教員で、元東京都副知事の青山教授にお話しを伺います。よろしくお願いします。

青山 はい、「ミスター防災」の早坂さんと、防災についてお話するのを、楽しみに参りました。

早坂 東京都は、被災地の復興に対して、様々な独自の支援を行っていますね。

被災直後の3月12日、宮城県岩沼市で（撮影：早坂よしひろ）

こんな支援のやり方もあるのですね。

青山 復興の決め手は、教育・雇用・住宅です。ひとつ例を挙げましょう。福島県では、原発事故により6000人の児童が県外避難しています。そのため平成23年度の小学校教員の新規採用を中止しました。そこで東京都は、福島に児童が戻ってくるまでの5年間程度、都内の学校で働いてもらい、その後福島に赴任する教員を50人、「福島枠」として採用しました。

早坂 合格者の大半が、福島在住の方だと伺いました。こんな支援のやり方もあるのですね。

青山 食品や衣類を送る支援も大切ですが、本当に喜ばれるのは、雇用だと思います。それも臨時的なものでなく、安定した仕事です。

早坂 なぜ復興庁の設置に、11ヶ月もかかったのでしょうか。現状を見ると、残念ながら国としての復興支援が機能しているようには思えません。

青山 そこなんです。だからこそ、現場を知っている東京都が、踏み込んだ支援を行う必要があるのでしょう。火葬場も被災し、発災後一ヶ月間は、多くのご遺体をやむなく土葬していました。それを察知した東京都が、自らトラックを出し、860体ものご遺体を火葬してお返ししました。災害支援の成功例です。

発災当日に被災地に入り活動したそうですね。

青山 ところで早坂さんは発災当日に被災地に入って活動したそうですね。

早坂 はい、地震が発生したのは、都庁内で、石原知事と別れた直後でした。反射的に体が動き、ただちに自分の車で仙台に向かいました。途中で大学院時代の仲間も加わり、ご遺体搬送などのお手伝いをさせて頂きました。

青山 災害対応には、現場を知ることとスピードが求められます。さすが「ミスター防災」です。

早坂 今後の復興支援には、何が必要でしょうか。

青山 国からの支援策の押し付けではなく、被災地が望んでいることへの支援です。

そして東京の活発な経済活動が、わが国経済をリードし、東北の復興財政を支えるという気概です。2020年東京オリンピック招致の支持率が、都内より被災地の方が高いというのは、明るい話だと思います。

早坂 まず、被災地の復興支援について伺いました。ありがとうございました。

青山　俣　教授　プロフィール
東京都副知事（石原都政＝防災担当）を経て、
明治大学公共政策大学院教授。
ペンネーム「郷仙太郎」としての著書も多数。

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

早坂よしひろ事務所：〒167-0051 杉並区上荻1-11-5-505　☎03(3220)0411　hello@tokyo-hayasaka.com

東京都議会議員 早坂よしひろレポート
都政報告
Hayasaka Report 2012.3
発行 都議会自民党

東京の震災対策編

1,300万都民の「いのち」が掛かっています。

防災上危険な狭あい道路にて

青山 杉並区にも未だ拡がる、木造住宅密集地域で、もし地震により火災が発生したらどうなるでしょうか。家と家が近いので、あっという間に燃え広がる。しかし道が狭く、消防車は入ってこられません。備蓄食糧が足りずに餓死するような事態は考えられませんが、火災による死亡は極めて現実的です。

早坂 阪神淡路大震災では、死者の7割が圧死・窒息死でした。建物倒壊や家具転倒の下敷きになり、死亡したのです。従って火災、そして倒壊建物・転倒家具から、いかに身を守るかということが、震災対策の本丸だと思います。

徹底した防災教育の成果です。

青山 一方、防災教育は、短期から中期的な課題です。

早坂 東日本大震災で、岩手県釜石市の死者・行方不明者1200人のうち、小中学生はわずか5人でした。これは徹底した防災教育の成果です。釜石の中学生たちは、まず自らの身を自力で守り、更に、助けが必要な小学生や高齢者を助けたのです。

青山 「釜石の奇跡」ですね。

早坂 この事例を踏まえ、都内の高校生すべてが上級救命講習を受講するよう、都議会本会議で、石原知事に提案しました。高校生ならば、もはや人に助けてもらう側ではなく、人を助ける側にあるからです。

青山 それを知事が受け止め、まずはモデル校から、都立高校での上級救命講習がスタートすることになりました。見事な手腕です。

早坂 ありがとうございます。ですが「明日にも大地震発生」との切迫感があれば「まずはモデル校から」などと悠長なことにはならないはずです。そこで青山教授に、身近でできる防災対策について伺います。

そのぐらいの危機感が必要です。

早坂 次に、東京を襲う震災について伺います。先日「マグニチュード7級の大地震の4年以内発生確率が70%」という驚くべき発表がありました。現在は訂正されたようですが、そのぐらいの切迫性と危機感を持った対応が必要です。

青山 都市の耐震化や不燃化にはどうしても時間が掛かります。仮に明日、大地震が発生するとなれば、今、何をしておくべきか。そのことと、中長期的な対策との、どちらも大切です。

早坂 まず、本質的な対策である、中長期的な対策から伺います。

青山 まずは自分の身を守ってください。ぐらっときたら特に頭を守る。日頃から自宅の防災力を強くする。家具の固定が第一。避難するときは火災に気をつけて。それから、道路、電車など都市のインフラの安全性、電気・電話・放送・上下水道などライフラインがいざというとき大丈夫かどうか。近隣のビルやマンション、学校や病院など公共施設の安全性についても大いに関心を持ってください。

早坂 1300万都民の「いのち」が掛かっています。引き続き全力で、防災対策を進めます。ありがとうございました。

早坂よしひろ
ミスター防災

プロフィール

- ●昭和43年 荻窪の東京衛生病院生まれ（43才）
- ●西田幼・西田小・松渓中卒業、大検合格
- ●立教大学法学部（北岡伸一ゼミ）卒業
- ●働きながら明治大学公共政策大学院（青山佾ゼミ）修了
- ●防災情報機構ＮＰＯ法人事務局次長として全国講演
- ●平成17年 東京都議会議員に初当選（現在２期目）
- ●東京都議会防災議連幹事、日本防災士会東京都支部長
- ●明治大学客員研究員

＜災害調査＞
米国 ハリケーンカトリーナ、中国 四川大地震　他、国内外多数
東日本大震災では発災当日に被災地入りし、支援活動を行う。

東京の「いのち」を守る。

東日本大震災　復興祈念
防災講演会

日時：平成24年3月11日（日）午後2時30分～
会場：阿佐ヶ谷聖ペテロ教会　杉並区阿佐谷北2-16-11
主催：杉並立教会
話者：早坂よしひろ
演題：「非常識」な防災対策

入場無料

皆さまのご意見をお寄せ下さい。

早坂よしひろ事務所：〒167-0051 杉並区上荻1-11-5-505　☎03(3220)0411　hello@tokyo-hayasaka.com